

延命率向上で地域の救急医療に貢献

- ・渋川市役所から三次医療施設である群馬大学医学部附属病院の**所要時間**がピーク時において**約3分(10%)短縮**
- ・信号がなく走行性のよい道路を利用し、**患者や救急隊員の負担を軽減**
- ・多量出血患者の死亡率が**32.5%** **22.5%**へ減少し**延命率向上**が期待

【地元の声】

供用前は、国道17号現道の坂東橋前後で慢性的な渋滞が発生しており、通過に時間を要していた。
 供用後は、渋滞解消による**時間短縮を実感**しており、病院への搬送も、**前橋渋川バイパスを利用するケースが増えて**いる。(地元消防関係者)

(平成22年5月24日ヒアリングより)



群馬県

一般国道17号
前橋渋川バイパス


現道国道17号の混雑状況

至 群馬大学医学部附属病院



至 渋川市役所

渋滞に巻き込まれる救急車(坂東橋付近)



渋川市役所

渋川市

前橋市

群馬大学医学部附属病院

L=5.7km

約3分(10%)短縮

供用前 (現道国道17号ルート)

供用後 (前橋渋川バイパスルート)

渋川市役所 群馬大学医学部附属病院の**所要時間が3分(10%)短縮**(ピーク時)

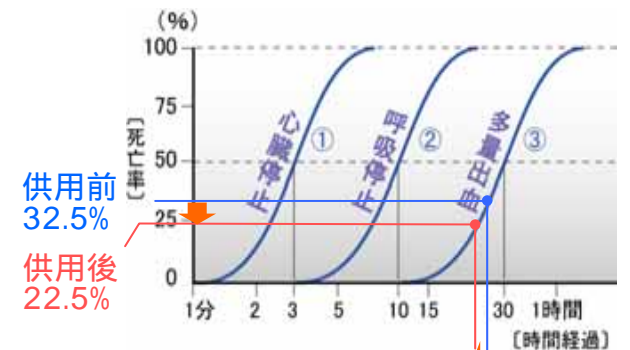
(単位:分)

供用前	25
供用後	22

(出典) 供用前: H21プローブデータ 供用後: H22.5プローブデータ

ピーク時: 平日朝7~9時 夕17~19時平均

多量出血時の死亡率が**約10.0%改善**



供用前 32.5%

供用後 22.5%

供用後22分 供用前25分

出典:「カーラーの救命曲線」一部改変 (M.Cara:1981)